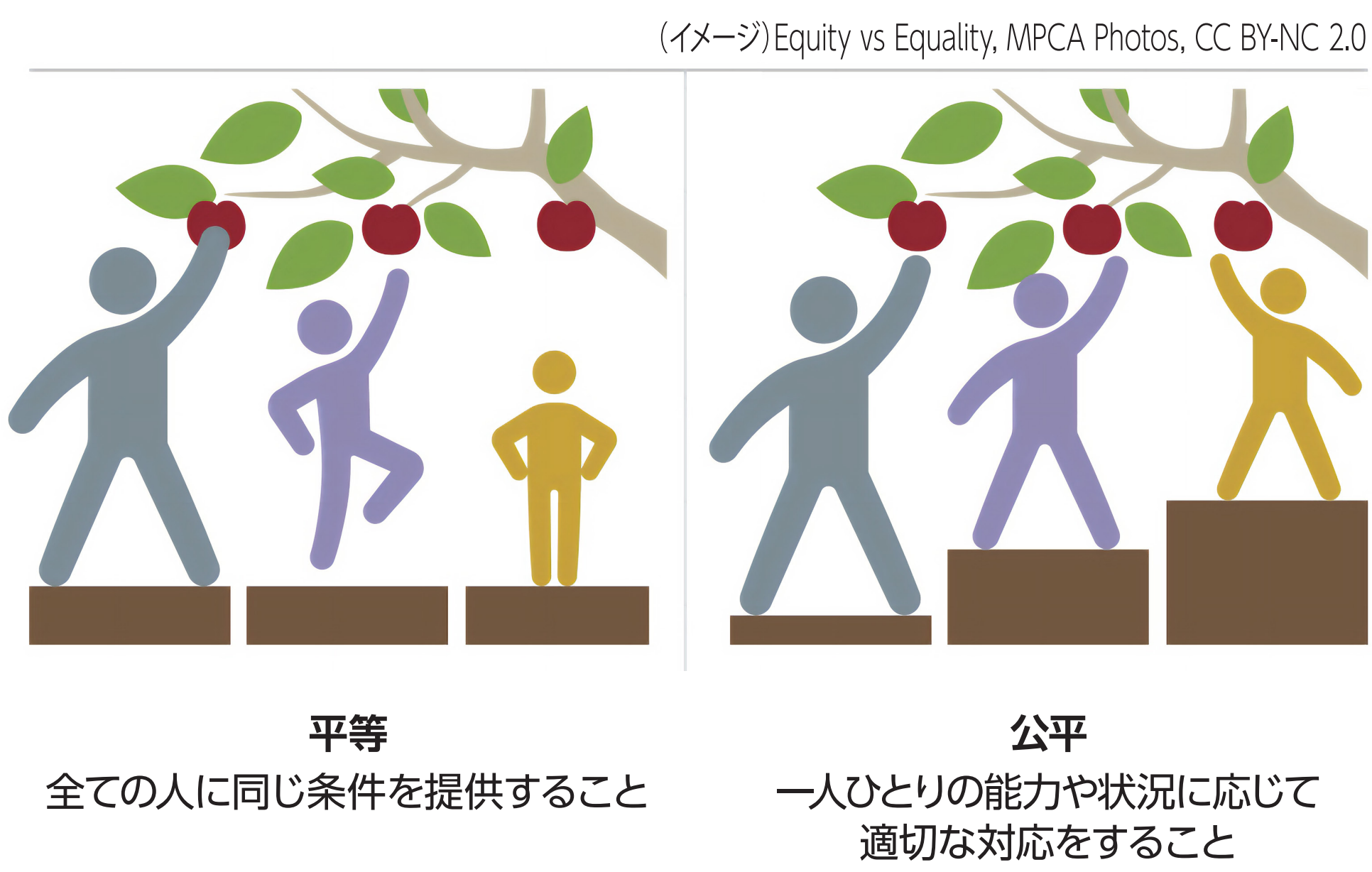


希少疾患におけるヘルス・エクイティとは？診断ラグとは？

ヘルス・エクイティ（医療の公平性）とは

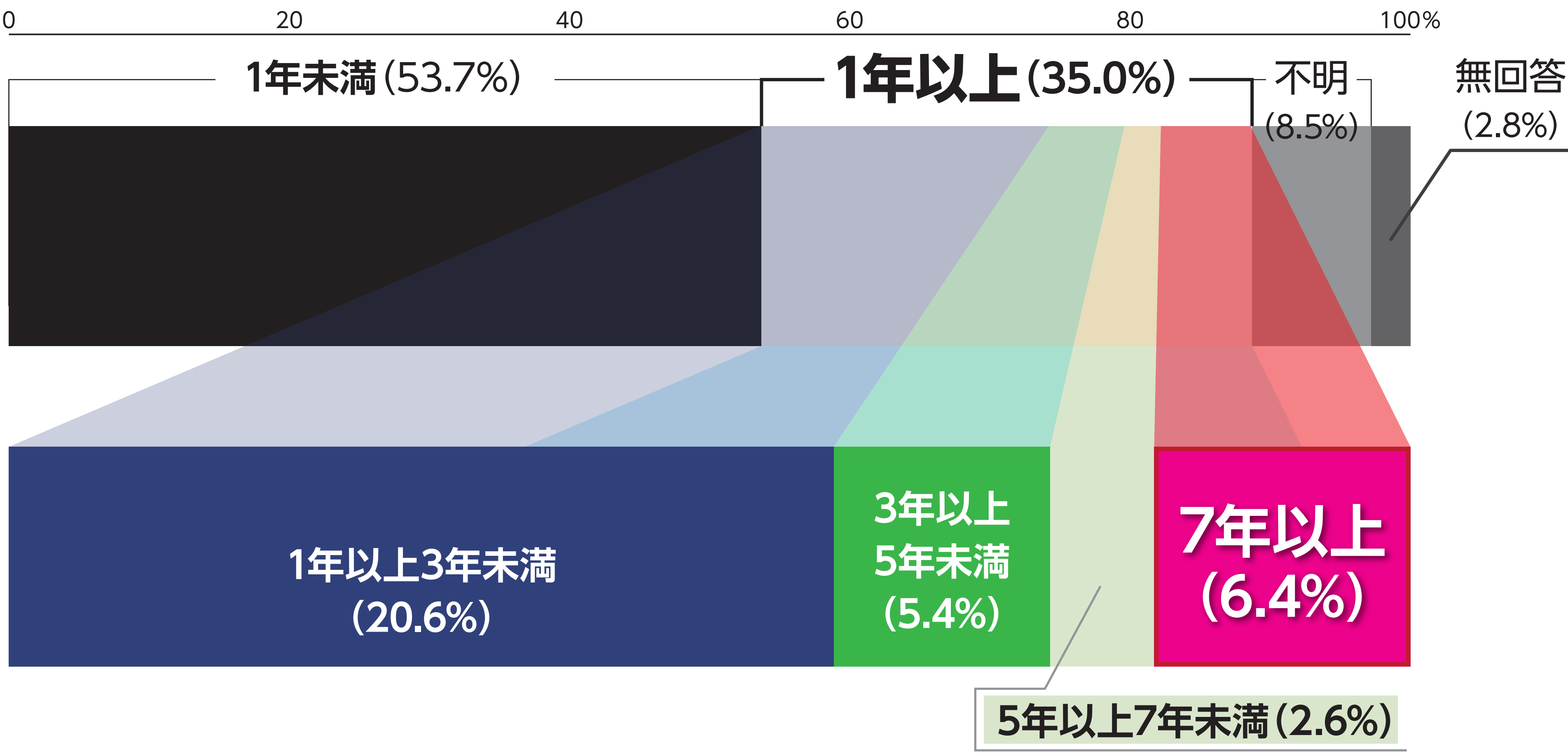
- ヘルス・エクイティは、「患者当事者一人ひとりが公平に医療へアクセスができるようになること」を意味します。
- 希少疾患に目を向けたとき、診断までに時間を要する、確立された治療法がない、治療費が高額である、など社会的課題や経済的負担は大きく、公平に適切な医療が受けられるとは限りません。
- 希少疾患におけるヘルス・エクイティを向上するためには、患・産官学が協力し社会的な啓発活動や環境整備が必要不可欠です。



診断ラグとは

- 診断ラグとは、症状を発症してから確定診断までに時間を要することを指します。
- 診断ラグは、ヘルス・エクイティを妨げる要因の一つです。適切な治療へのアクセスを遅らせ、身体的にも精神的にも、その後の生活の質を大きく低下させる可能性があります。
- 難病患者当事者へのアンケート調査¹⁾によると、症状発症から確定診断までに1年以上かかった方は35%、7年以上かかった方は6.4%でした。

確定診断までにかかった年数



アレクシオンファーマは希少疾患のリーディングカンパニーとして、希少疾患の患者さんのより良い未来のために「ヘルス・エクイティ（医療の公平性）」を推進し、とりわけ、社会的課題である「診断ラグ」の改善に向けて、ソリューションの提供や啓発活動を積極的に進めてまいります。



出典 1) 令和5年度東京都福祉保健基礎調査「障害者の生活実態」

RDD2025のすべてのパネルは
左の二次元コードからご覧いただけます。